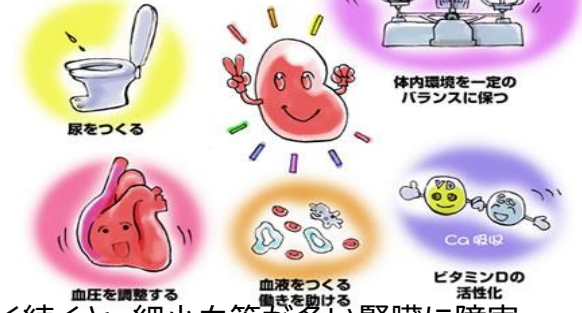


腎症予防のために気をつけたいこと

腎臓の働き

腎臓病が進行し、人工透析になっている人が増加しています。透析導入原因の1位(39.5%)は糖尿病腎症です。その他、腎硬化症(高血圧)、痛風腎(高尿酸血症)、など生活習慣病とも関わりが深いです。生活習慣で予防できることについて今回は説明します。



1、良好な血糖コントロール

糖尿病は血糖値が高くなる病気ですが、血糖の高い状態が長く続くと、細小血管が多い腎臓に障害が起きます。高血糖が原因で腎臓の糸球体細小血管が狭くなり、十分にろ過できないため起きるので、血糖コントロールが大切です。(目標値は年齢や使用薬剤や病状により異なることもあります)

→ 目標 HbA1c は6.9%以下

2、血圧のコントロール

塩分の摂取が多いと、腎臓に排泄の過剰な負担をかけます。また、高血圧やむくみの原因となります。塩分を控えた食事にします。(目標は1日6gです)日本人の塩分摂取は10.1gで、男性10.9g、女性9.3gです。(R1国民栄養調査)まずは次のことから始め: 日本高血圧学会『減塩のコツと塩分の多い食品料理』より一部改変抜粋

①新鮮な食材で薄味

だし旨味や素材の味を生かす

②香辛料・香味野菜・酸味を利用

③減塩調味料に変更

④汁物は1日1杯以下
具沢山汁少な目にする

⑤外食中食は表示を参考に

栄養成分表示(1個装当たり)	
エネルギー	34 kcal
たんぱく質	0.3 g
脂質	1.6 g
炭水化物	4.6 g
ナトリウム	35 mg
食塩相当量	0.09 g

⑥漬物は控えめに

⑦食べる時に味付け調味料使う頻度減らす

⑧麺の汁は残す

汁を残すと塩分-4g

⑨味付けのメリハリをつける

→ 目標血圧 夏場血圧の下がり過ぎにも注意。110mmHg 未満にならないように薬調節をします。

高血圧ガイドラインが2019年に改訂になり、年齢区分での降圧目標の数値が厳しくなりました。

降圧目標

	診察室血圧	家庭血圧
<ul style="list-style-type: none"> 75歳未満の成人 脳血管障害患者 (両側頸動脈狭窄や脳主幹動脈閉塞なし) 冠動脈疾患患者 慢性腎臓病患者(蛋白尿陽性) 糖尿病患者 抗血栓薬服用中 	130/80mmHg	125/75mmHg
<ul style="list-style-type: none"> 75歳以上の高齢者 脳血管障害患者 (両側頸動脈狭窄や脳主幹動脈閉塞あり、または未評価) 慢性腎臓病患者(蛋白尿陰性) 	140/90mmHg	135/85mmHg

3、尿酸値のコントロール

高尿酸血症(痛風)では、腎臓の中に尿酸塩が沈着し、腎臓障害を起こします。尿酸値を正常値に保つことが重要です。

- ☆尿酸値を正常に保つ (4~6mg/dl)
- ☆尿酸値が高い人は、プリン体摂取制限する (えび・レバー・鰯・カツオなど高プリン体食品です)
- ☆適量飲酒(アルコール自体が尿酸値上昇させます)
- ☆尿をアルカリ化する (野菜の摂取を増やす)
- ☆水分を多めにとる

適量飲酒

いずれか1つ週 2 日の休肝日作成



4、喫煙をさける

喫煙者は尿たんぱくを有する頻度が吸わない人と比較し、4.5 倍多いです。喫煙により腎臓への血流が悪くなります。喫煙によりインスリン感受性が低下し、血糖値が上昇しやすくなります。喫煙により糖尿病発症・進行のリスクが高まり、重症化しやすくなります。

→ 喫煙は腎障害をさらに悪化させます。禁煙し、受動喫煙もさけます。



5、蛋白質の過剰摂取をさける

塩分や蛋白質の過剰摂取は、腎機能低下を促進します。早期腎症レベルから塩分・蛋白質の過剰は避けます。顕性アルブミン尿期以降では、塩分と蛋白質を制限します。

2023年ガイドラインが変更になり名称が少し変更になりました。

糖尿病性腎症の病期分類2023と食事療法

病期	尿中アルブミン値 尿蛋白値	eGFR (ml/分/1.73m)	食事療法
正常アルブミン尿期 (第1期)	正常アルブミン尿 (30mg/gCre未満)	30以上	糖尿病食が基本
微量アルブミン尿期 (第2期)	微量アルブミン尿 (30~299mg/gCre)	30以上	糖尿病食が基本 塩分、蛋白(1~1.2g/kg/日) の摂りすぎに注意!
顕性アルブミン尿期 (第3期)	顕性アルブミン尿 (300mg/gCre以上) 持続性蛋白尿 (0.5g/gCre以上)	30以上	塩分、蛋白(0.8g/kg/日) の管理をきちんと行う。
GFR高度低下 末期腎不全期 (第4期)	問わない	30未満	塩分、蛋白(0.6~0.8g/kg/日) の管理をさらに厳格に行う。
腎代替療法期(第5期)	透析療法中 腎移植後	※カリウムが高い場合は制限が必要となります。	

1日に必要なたんぱく質の目安

片手が目安! 高齢者が1日に必要なたんぱく質量は
[1.0~1.2(g)]×体重(kg)
(体重50kgの人は50~60g/日)

豚ロース(焼き)50g (約13g) + 焼魚(焼き)70g (約20g) + 牛乳180g (約6g)

卵50g (約6g) + 納豆50g (約8g)

これで合計約53gのたんぱく質とれます

日本食品標準成分表2015年版(七訂)より計算 ※ ()内はたんぱく質の目安

※サルコペニアとは、筋肉量が減少し、筋力や身体機能が低下している状態のことをいいます。